

## 会長挨拶

3月に開催された春季大会総会においてご報告しましたように、会長の諮問機関として将来構想委員会を発足させました。この委員会では、現在、学会が直面している問題点を整理し、具体的な対応策を検討し、優先度に応じて実現可能な対応策を実施することをめざしています。議論のための委員会にならないよう、運営していくようお願いしています。

それでは、今、どのような問題点があるのか、いくつか指摘しておきたいと思います。第一に、学会員の漸減です。育種学会員数はこの1年間で72名減少しましたが、この2～3年はほぼ同様に減少傾向にありました。この傾向は育種学会に特別なものではなく、農学関連の学協会からなる日本農学会（日本農学賞の運営母体）全体の傾向です。昨年に比べて、日本農学会所属の会員数は2633名減少しました。6学協会では2～156名の会員が増加する一方、16学協会では1～1008名減少しました。農学全体のパイが小さくなっていることは確かだと思われませんが、一方で学協会間で違いもみられます。農学全般にわたる傾向と育種学会特有の傾向を峻別し、具体的な措置を講じていきたいと考えています。局面を画期的に変えるような妙手はないように思いますので、費用対効果を考慮しつつ対応していくことが肝要だと考えています。

第二に、学会誌とくに *Breeding Science* の評価です。この数年間、BS誌のIFは0.9～1.3の間を推移し、年次間でのばらつきが大きく安定していないように思います。また、非会員からの投稿論文の拒絶率が極めて高いことが気がかりです。それは、海外の非会員から完成度が高くない論文が投稿されていることを示し、海外の投稿者が抱くBS誌の評価を暗示しているとも推察できます。BSに対するマイナスイメージを払拭し、海外から質の高い論文が投稿されるためにも、現在よりも高いIF、たとえば安定して1.5～2.0のIFを確保したいと考えています。特集号の刊行、学会賞の英文レビューの掲載等とともに、大学院生の最初の論文をBS誌に投稿していただくような、会員各位の対応でIFの向上が図れると思います。

学会の活動は会費により支えられています。会員の減少は学会活動に直接的に影響する重要な問題です。現在の財政状況は良好ですが、これには科研費約350万円を獲得し、BSの印刷費に充当されていることが大きく貢献しています。科研費による資金は平成26年度まで継続されますが、それ以降は新規に申請し獲得をめざすこととなります。過去4年間、科研費を獲得できていなかったとすると、1400万円ほどの印刷費を会費から支出してい

ることになります。いずれにしても会員減少の原因を探り、未来に向けて会員の維持あるいは増加のための方策を講じていきたいと考えています。

以上のように、会員の減少問題とBS誌の国際的評価の向上は、学会にとって表裏にある重要な課題です。一朝一夕の解決は望めないものの、会員の不断の努力なくして解決の糸口を見つけることすら叶いません。これらの課題に対して将来構想員会は中核として活動していきますが、あわせて会員各位の建設的で具体的な提案や意見を歓迎しています。

将来構想委員会メンバー（五十音順・敬称略）

安東郁男（九州沖縄農研）・石本政男（生物研）・伊藤純一（東大）・小林麻子（福井県農試）・北柴大泰（東北大）・草場信（広島大）・小松田隆夫（生物研）・寺地徹（京産大）・中園幹生（名古屋大）・福岡修一（生物研）・福岡浩之（野茶研）・村井耕二（福井県立大）・横井修司（岩手大）

日本育種学会  
会長 奥野員敏

## 学会だより

### ◇ 常任幹事会議事録

開催場所：東京大学農学部

開催日時：2013年3月9日（14:00～18:20）

出席者：奥野員敏、熊丸敏博、福岡修一、横井修司、友岡憲彦、大坪憲弘、岩田洋佳、有村慎一、宅見薫雄、北野英己、佐藤和弘、一谷勝之、奥本裕、加藤謙司、片山健二、犬飼義明

委任状：吉村淳、阿部純、笹沼恒夫

各常任幹事からの経過報告後、平成24年度決算案、平成25年度予算案、次期以降の大会開催案、編集委員の推薦、日本育種学会将来構想検討委員会の設置、幹事会議題、総会の式次第が提案、了承された。また、要旨集分与に関してHPに掲載する事、東京大学において記者発表が行われたことが報告された。

### ◇ 幹事会議事録

日時：2013年3月26日（15:00～17:00）

場所：東京農業大学世田谷キャンパス1号館6F632教室

出席者：奥野員敏、熊丸敏博、阿部純、笹沼恒夫、横井修司、千田峰生、西尾剛、原田竹雄、石本政男、江面浩、大澤良、勝田真澄、山本俊哉、佐々英徳、房相佑、岩田洋佳、堤伸浩、平野久、北野英己、犬飼義明、野々村賢一、岩崎行玄、奥本裕、宅見薫雄、齊藤大樹、加藤謙司、佐藤和広、辻本壽、一谷勝之、松田靖、近藤勝彦、大坪憲弘、友岡憲彦、有村慎一、福岡修一、片山健二

委任状：吉村淳，加藤清明，三上哲夫，中村俊樹，岩永勝，矢野昌裕，木庭卓人，高溝正，川上直人，松岡信，寺石政義，坂井真，山岸博

## 1. 報告

各常任幹事（総務，科研費・農学会，ホームページ，地域，編集英文誌，編集和文誌，集会）から報告がなされた。LMO 委員会からは ABS（Access to genetic resources and benefit sharing）に関する情報提供の現状と今後の予定について報告がなされた。男女共同参画委員会からは，活動内容と育種学会での幹事・座長への女性登用などが提案され，今後の学会活動において女性会員を積極的に活用することが合意された。シンポジウム委員会からは，和文誌にシンポジウム・ワークショップの要旨を掲載予定であるが，シンポジウム・ワークショップの開催から和文誌への原稿の投稿までの一連の手順が周知されていないので，今後，集会幹事を交えて対応策を検討することが報告された。記者発表報告では，今大会の 249 題の中から 5 題を選び，3 月 19 日に東京大学で幹事長と記者発表担当幹事で記者発表を行ったこと，報道関係 3 社が来場し，同日 17 時に日経 BP への掲載があったことが報告された。

## 2. 議事

### 1) 第 10 回（平成 24 年度）論文賞の選考

学会賞等選考委員会より推薦された 3 編の論文について，出席した幹事の投票により論文賞として承認された。

論文名：Construction of a high-density reference linkage map of tea (*Camellia sinensis*).

著者名：Fumiya Taniguchi, Kazumi Furukawa, Sakura Ota-Metoku, Nobuo Yamaguchi, Tomomi Ujihara, Izumi Kono, Hiroyuki Fukuoka, Junichi Tanaka

掲載号・頁：Breeding Science 62(3): 263–273

論文名：Variation in floral scent compounds recognized by honeybees in Brassicaceae crop species.

著者名：Kiwa Kobayashi, Miyako Araki, Atsushi Tanaka, Shigeru Matsuyama, Hiroshi Honda, Ryo Ohsawa

掲載号・頁：Breeding Science 62(4): 293–302

論文名：Clone identification in Japanese flowering cherry (*Prunus* subgenus *Cerasus*) cultivars using nuclear SSR markers.

著者名：Shuri Kato, Asako Matsumoto, Kensuke Yoshimura, Toshio Katsuki, Kojiro Iwamoto, Yoshiaki Tsuda, Shogo Ishio, Kentaro Nakamura, Kazuo Moriwaki, Toshihiko Shiroishi, Takashi Gojobori, Hiroshi Yoshimaru

掲載号・頁：Breeding Science 62(3): 248–255

### 2) 平成 25 年度学会賞等選考委員（6 名）の選出

平成 25 年度学会賞等選考委員に関する投票が行われ，6 名の選考委員が選出された。なお，委員長は内規に従い副会長が務める。

平成 25 年度学会賞等選考委員：西尾剛氏，江面浩氏，奥本裕氏，佐藤和広氏，大澤良氏，平野久氏（次点：矢野昌裕氏，辻本壽氏，堤伸浩氏）

### 3) 平成 24 年度決算報告，監査結果

平成 24 年度決算と監査結果について提案がなされた。予備費，出版助成金の理由書の内容等について質疑後，原案どおり承認された。

### 4) 平成 25 年度予算案の検討

平成 25 年度予算案が提案され，原案通り承認された。健全な運営をしているが，予備費・基金の金額が多いことに対する質問がなされ，公認会計士への資産管理依頼などを含め，常任幹事会で継続審議することとした。

### 5) 編集委員の推薦について

3 名の新編集委員が推薦され，原案通り了承された。新編集委員：加藤鎌司氏・Dr. Luigi Guarino・Dr. Michael Hermann

### 6) 平成 26 年春季大会開催地について

平成 26 年春季大会は東北大学の西尾剛氏を大会委員長として平成 26 年 3 月 20 日～22 日の日程が提案され，原案通り了承された。

### 7) 将来構想検討委員会の設置について

福岡・横井担当常任幹事から説明後，会長より日本育種学会将来構想検討委員会設立の背景について補足説明があった。委員会は会長の諮問委員会とし，会議の運営には 2 名の総務担当常任幹事が当たること等，原案通り了承された。

## 3. その他

### 1) 第 123 回講演会日本育種学会優秀発表賞の投票方法について

幹事に日本育種学会優秀発表賞の投票用紙を配布後，投票方法の説明が行われた。

## ◇ 総会議事録

開催日：平成 25 年 3 月 27 日（13:30～14:15）

開催地：東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂

1. 各常任幹事報告 庶務（総務，農学会・科研費，ホームページ），集会，英文誌，和文誌

2. 第 10 回（平成 24 年度）日本育種学会論文賞の発表

### 3. 議事

1) 平成 24 年度決算報告・会計監査報告

2) 平成 25 年度予算案の承認

3) 名誉会員の推戴

議事はいずれも異議無く承認された。

### 4. その他

1) LMO 委員会関連報告

2) 次期開催校（鹿児島大学）の紹介

3) その他

◇ 平成 24 年度決算及び平成 25 年度予算

(単位：円)

収入の部	平成 24 年度決算額	平成 25 年度予算額
1. 繰入金	10,225,288	15,457,053
2. 会員会費	17,110,000	17,042,000
3. 賛助会員会費	900,000	900,000
4. 掲載料	800,000	800,000
5. 雑誌著者負担分	3,280,225	3,300,000
6. 別冊代等	3,692,000	3,850,000
7. 広告料	880,000	880,000
8. 寄付金	629,506	0
9. 雑収入	166,788	150,000
計	37,683,807	42,379,053

支出の部	平成 24 年度決算額	平成 25 年度予算額
I. 事業費		
1. 雑誌刊行費		
(1) 印刷費	4,913,775	8,480,000
(2) 雑誌発送費	696,004	600,000
(3) 英文校閲料	579,075	400,000
(4) オンライン投稿システム管理費	1,306,725	1,330,000
(5) 別刷印刷費	507,359	800,000
2. 別冊刊行費		
(1) 印刷費	2,986,701	3,000,000
(2) 別冊発送費	54,894	60,000
3. 大会費	1,200,000	1,200,000
4. シンポジウム費	265,000	400,000
5. 学会賞費	401,400	450,000
6. オンライン費	739,725	700,000
7. 名簿作成費	0	450,000
II. 運営費		
1. 学会分担金	209,796	230,000
2. 事務担当者手当	400,000	380,000
3. 事務費		
(1) 庶務	1,255,178	800,000
(2) 編集		
英文誌	830,345	850,000
和文誌	0	100,000
(3) 集会	79,850	200,000
(4) 会計	126,000	150,000
4. 事務委託費	4,401,600	4,401,600
5. 通信費・送料	630,247	600,000
6. 付属印刷物	117,856	200,000
7. 男女共同参画協会活動費	60,885	140,000
8. 地域活動費	358,054	400,000
9. 雑支出	82,885	160,000
III. 予備費		15,897,453
IV. 繰入金		
次年度へ繰入	15,457,053	0
基金へ繰入		0
計	37,683,807	42,379,053

平成 24 年度日本育種学会賞

- ・佐藤和広氏（岡山大学資源植物科学研究所）：オオムギゲノム多様性の解析と育種への応用
- ・三位正洋氏（千葉大学大学院園芸学研究所）：細胞工学的手法を用いた園芸植物の育種技術開発に関する研究  
平成 24 年度日本育種学会奨励賞
- ・宇賀優作氏（農業生物資源研究所農業生物先端ゲノム研究センター）：イネの根の形態と構造に関する遺伝解析と耐乾性育種への展開
- ・内藤健氏（農業生物資源研究所遺伝資源センター）：イネ活性型トランスポゾン *mPing* によるゲノム改変機構のゲノミクス解析
- ・久保貴彦氏（国立遺伝学研究所系統生物研究センター）：栽培イネにおける生殖的隔離遺伝子群の遺伝的解析

◇ 日本育種学会第 123 回講演会選定課題記者会見報告

発表日時：平成 25 年 3 月 19 日 14:00 ～ 15:00

会場場所：東大弥生会館アネックス講義棟

出席者：熊丸敏博，岩田洋佳

日経 BP 社，化学工業日報，科学新聞社から 3 名の記者が参加し，5 題の課題について記者発表を実施した。記者会見後に講演番号 209 の課題が日本農業新聞，講演番号 302 の課題が日経バイオテク ONLINE に掲載された。

- (1) 講演番号：103「完全な全ゲノム配列が決定されていないイネ品種の突然変異体における迅速な原因遺伝子単離方法」高木宏樹・八重樫弘樹・植村亜衣子・阿部陽・夏目俊・宇津志博恵・寺内良平（岩手生物工学研究センター，岩手大・連合農学研究科）
- (2) 講演番号：209「トマト単為結果性遺伝子 *pat-2* の同定」布目司・本多一郎・大山暁男・宮武宏治・山口博隆・福岡浩之（農研機構野菜茶研，前橋工科大学）
- (3) 講演番号：302「ゲノミックセレクションモデルに基づくイネ F<sub>2</sub> 集団における出穂期分離の予測」岩田洋佳・吉岡拓磨・小野木章雄・江花薫子・林武司・山崎将紀（東大院農学生命科学，独立行政法人科学技術振興機構，CREST，神戸大院農，生物研，農研機構中央農研）
- (4) 講演番号：408「低アミロースの巨大胚水稻新品種「東北胚 202 号」の育成」佐伯研一・遠藤貴司・永野邦明・佐々木都彦・千葉文弥・我妻謙介・早坂浩志・酒井球絵（宮城県古川農業試験場，宮城県北部地方振興事務所，宮城県病害虫防除所，宮城県農業振興課，宮城県農業・園芸総合研究所）
- (5) 講演番号：P006「青臭みのない黒大豆新品種「くろさやか」の育成」高橋将一・高橋幹・河野雄飛・大木信彦・小松邦彦・中澤芳則・松永亮一（農研機構九農研，農研機構北農研，国際農研）

◇ 学会賞・奨励賞授与，受賞講演

開催日：平成 25 年 3 月 27 日（14:45 ～ 17:30）

開催地：東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂

## ◇ 地域談話会だより

## 〈東北地区〉

2012年12月3日(月)に第27回秋田育種談話会を秋田県農業試験場において開催し、49名の参加があった。講演ではイネやダイズの育種や栽培に関する5題「水稻の環境保全型種子消毒の普及による諸問題とその対策」藤晋一(秋田県立大学)、「東北地方における水稻の耐ころび型倒伏性基準品種選定の試み」津田直人(東北農業研究センター)、「アメリカ中南部における大豆品種特性と栽培技術について」島村聡(東北農業研究センター)、「マーカー情報を活用したダイズの耐病性育種」加藤信(東北農業研究センター)、「硬化性が異なる糯品種におけるアミロペクチン構造と糊化特性」小玉郁子(秋田県農業試験場)について報告があり、秋田県内の育種・普及関係者にとって有意義な研究交流の場となった。

## 〈中部地区〉

第20回育種学会中部地区談話会が、2012年12月8日(土)に名古屋大学豊田講堂シンポジウム会議室にて開催された。特別講演1題および19題の一般発表が行われ、中部地域5県の大学・研究機関から73名が参加し、活発な議論が交わされた。また今回は20周年の節目ということもあり、参加者全員による投票に基づき優秀発表賞を授与するなど、互いの成果をたたえ合いつつ盛況の内に幕を閉じた。発表課題は以下の通りである。

特別講演：アフリカでの農業研究経験から考える作物育種への期待。浅沼修一(名古屋大学農学国際協力教育研究センター)

一般発表：(1) *Arabidopsis* 属植物における乳頭細胞の単離法及び遺伝子情報基盤の構築。○松田智貴<sup>1</sup>・大坂正明<sup>2</sup>・長坂香里<sup>1</sup>・坂園聡美<sup>2</sup>・高橋宏和<sup>3</sup>・中園幹生<sup>3</sup>・岩野恵<sup>4</sup>・高山誠司<sup>4</sup>・Yong Pyo Lim<sup>5</sup>・鈴木剛<sup>6</sup>・渡辺正夫<sup>2</sup>・諏訪部圭太<sup>1</sup>(1. 三重大院生物資源, 2. 東北大院生命科学, 3. 名大院生命科学, 4. 奈良先端大バイオサイエンス, 5. 韓国忠南大学, 6. 大阪教育大自然), (2) 多胚性ホモ接合型品種「フルア」の体細胞胚誘導と遺伝子発現解析。○小澤彩<sup>1</sup>・中野道治<sup>2</sup>・大同原野<sup>1</sup>・梅田淳平<sup>1</sup>・遠藤朋子<sup>3</sup>・藤井浩<sup>3</sup>・島田武彦<sup>3</sup>・清水徳朗<sup>3</sup>・吉岡照高<sup>3</sup>・大村三男<sup>1</sup>(1. 静岡大農, 2. 京大院農, 3. 農研機構果樹研), (3) カンキツおよびカラタチにおけるフラボノイドのメチル基転移酵素遺伝子の探索。○榎村まりも<sup>1</sup>・國吉大地<sup>1</sup>・原田健太郎<sup>1</sup>・吉岡照高<sup>2</sup>・藤井浩<sup>2</sup>・遠藤朋子<sup>2</sup>・島田武彦<sup>2</sup>・清水徳朗<sup>2</sup>・大村三男<sup>1</sup>(1. 静岡大農, 2. 農研機構果樹研), (4) トウガラシ属近縁種・野生種と栽培種 *Capsicum annuum* の交雑親和性に関する研究。○加藤友希・松島憲一・南峰夫・根本和洋(信州大院農), (5) QTL解析によるイネの稈強度に関わる染色体領域の推定。○石原亮太<sup>1</sup>・武田泰実<sup>1</sup>・藤城靖子<sup>1</sup>・國島健<sup>2</sup>・保浦徳昇<sup>3</sup>・北野英己<sup>3</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 名大農,

3. 名大生物機能開発利用研究センター), (6) アフリカ在来種 *NERICA* の親系統を用いた着色および無毛性に関する遺伝学的解析。○武田泰実<sup>1</sup>・保浦徳昇<sup>2</sup>・石原亮太<sup>1</sup>・國島健<sup>3</sup>・藤城靖子<sup>1</sup>・池田真由子<sup>2</sup>・北野英己<sup>2</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 名大生物機能開発研究センター, 3. 名大農), (7) 超多粒性イネを用いた穂の高次分枝に関するQTLのファインマッピング。○藤城靖子<sup>1</sup>・保浦徳昇<sup>2</sup>・石原亮太<sup>1</sup>・武田泰実<sup>1</sup>・國島健<sup>3</sup>・池田真由子<sup>2</sup>・北野英己<sup>2</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 名大生物機能開発利用研究センター, 3. 名大農), (8) イネにおける穂重の減少度に関わる遺伝学的研究。○國島健<sup>1</sup>・藤城靖子<sup>2</sup>・保浦徳昇<sup>3</sup>・中野利哉<sup>2</sup>・武田泰実<sup>2</sup>・石原亮太<sup>2</sup>・北野英己<sup>3</sup>(1. 名大農, 2. 名大院生命科学, 3. 名大生物機能開発利用研究センター), (9) イネの初期胚発生時に細胞特異的発現をする遺伝子マーカーの探索。○大前南美<sup>1</sup>・八木陽也<sup>1</sup>・石本聖絵<sup>1</sup>・野田祐作<sup>1</sup>・佐藤豊<sup>2</sup>・松原健一郎<sup>3</sup>・伊藤純一<sup>3</sup>・佐藤豊<sup>1</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 生物資源研, 3. 東大院農学生命), (10) 根端分裂組織のオーガニゼーションに関わる *QHB/OsWOX5* 遺伝子の解析。○柴田恭佑・犬飼義明(名大院生命科学), (11) 嫌気条件下のイネの根におけるスベリン生合成関連遺伝子群の発現変動。○渡邊宏太郎<sup>1</sup>・西内俊策<sup>1</sup>・中園幹生<sup>1</sup>(1. 名大院生命科学), (12) 外来遺伝子防御システムを利用した高効率・高発現遺伝子組換え植物作出系の開発。○小澤美沙<sup>1</sup>・佐藤豊<sup>2</sup>(1. 名大農, 2. 名大院生命科学), (13) イネの根の誘導的通气組織形成過程における活性酸素種関連遺伝子の発現解析。○深澤彩<sup>1</sup>・山内卓樹<sup>1</sup>・長村吉晃<sup>2</sup>・西澤直子<sup>3,4</sup>・堤伸浩<sup>3</sup>・中園幹生<sup>1</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 農業生物資源研究所ゲノムリソースセンター, 3. 東大農学生命科学, 4. 石川県立大生物資源工学研究所), (14) ソルガム突然変異体の誘起と網羅的解析。○島山麻子<sup>1</sup>・Reynante L. Ordonio<sup>1</sup>・伊藤裕介<sup>2</sup>・山村卓也<sup>2,3</sup>・篠原(大前)梢<sup>2</sup>・中村(荒木)聡子<sup>2</sup>・春日重光<sup>4</sup>・徳永毅<sup>3</sup>・松岡信<sup>2</sup>・北野英己<sup>2</sup>・佐塚隆志<sup>2</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 名大生物機能開発利用研究センター, 3. (株)アースノート, 4. 信州大農学部AFC), (15) グレインソルガムと高糖性ソルガムの雑種集団を用いたQTL解析。○市川悦子<sup>1</sup>・春日重光<sup>2</sup>・宋献軍<sup>3</sup>・篠原(大前)梢<sup>3</sup>・北野英己<sup>3</sup>・松岡信<sup>3</sup>・佐塚隆志<sup>3</sup>(1. 名大院生命科学, 2. 信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター, 3. 名大生物機能開発利用研究センター), (16) How gibberellin deficiency affects internode elongation in sorghum: An insight into sorghum breeding history。○Ordonio, R.<sup>1</sup>, Y. Ito<sup>2</sup>, A. Hatakeyama<sup>1</sup>, K. Shinohara-Ohmae<sup>2</sup>, X.J. Song<sup>2</sup>, J. Yonemaru<sup>3</sup>, T. Tokunaga<sup>4</sup>, H. Kitano<sup>2</sup>, M. Matsuoka<sup>2</sup> and T. Sazuka<sup>2</sup>(1. Grad. Sch. of Bioagric. Sci., Nagoya Univ., 2. Biosci. Biotech. Ctr., Nagoya Univ., 3. Natl. Inst. of Agrobiol. Sci., 4. Earth Note Co. Ltd.), (17) ホウキモロコシの穂型に関する遺伝学的解析。○保崎翼<sup>1</sup>・伊藤裕介<sup>2</sup>・北野英己<sup>2</sup>・松岡信<sup>2</sup>・佐塚隆志<sup>2</sup>(1. 名大農, 2.

名大生物機能開発利用研究センター), (18) 組換え自殖系統を利用したイネの茎再生能力に関与する形質と QTL の探索. ○藤岡昌司<sup>1</sup>・尾崎雄哉<sup>2</sup>・米田典央<sup>3</sup>・北野英己<sup>3</sup>・土井一行<sup>1</sup> (1. 名大院生命農学, 2. 名大農, 3. 名大生物機能開発利用研究センター), (19) 多収イネ, ハバタキの穂の着粒構造形成に関わる *Gnl* および QTL の集積系統が茎葉および収量関連形質に与える影響. ○池田真由子<sup>1</sup>・當山恒頭<sup>2</sup>・森中洋一<sup>1</sup>・保浦徳昇<sup>1</sup>・土井一行<sup>2</sup>・芦荻基行<sup>1</sup>・松岡信<sup>1</sup>・北野英己<sup>1</sup> (1. 名大生物機能開発利用研究センター, 2. 名大院生命農学)



第 20 回中部地区談話会の様子 (優秀発表賞受賞者を囲んで)

## ◇ 第 122 回講演会に関するアンケートの集計結果

第 122 回講演会では, ①公募型ワークショップの開催, ②(秋季大会での) グループ研究集会の廃止, ③大会運営の一部を業者委託, などの新しい試みを行いました. アンケート回答者の皆様には, これらの新しい試みについておおむね賛意を表明していただいたものの, 実行において行き届かなかった点につき, お叱りのコメントを頂きました. 上記三つの試みは次回鹿児島大学にて行われる 2013 年秋季大会でも実施予定です. これらアンケート回答を参考に, 可能な限り多くの皆様の御意見に沿う形で実行できるよう改善する予定です. 御回答いただいた 151 名の皆様に感謝を申し上げますとともに, 育種学会会員と参加者の皆様の今後益々の発展をお祈り申し上げます.

アンケートの集計結果は <http://www.nacos.com/jsb/02/02sintyaku.html> にてダウンロードいただけます.

## ◇ 集会の案内

### 〈第 12 回国際コムギ遺伝学シンポジウムのお知らせ〉

平成 25 年 9 月 8 日 (日) から 9 月 14 日 (土) まで, 横浜市のパシフィコ横浜にて, 第 12 回 国際コムギ遺伝学シンポジウム (The 12th International Wheat Genetics Symposium) が開催されます. 参加登録ならびにアブストラクトの受付を 3 月 22 日 (金) より開始いたしましたので, 下記 Web サイトからお申込み下さい.

<http://www2.convention.co.jp/iwgs12/index.html>

早期登録 (割引あり) の締め切りは 5 月 31 日 (水), アブストラクトの締め切りは 5 月 17 日 (金), 事前登録の締め切りは 7 月 31 日 (水) となっております.

## ◇ 研究助成金のご案内

### 〈OECD 国際共同プログラム事業への募集についてのご案内〉

OECD 国際共同研究プログラム事業への募集について ~世界へ羽ばたく日本の農林水産研究者を支援します~

本プログラムでは, ●研究者が OECD 諸国へ短期在外研究を行う際の 6ヶ月までの旅費や滞在費の支援 (フェロシップ) ●国際ワークショップ開催の際に, 招へいする講演者の交通費や宿泊費の支援 (国際ワークショップ) などといった取組を行っております.

[フェロシップ]

1. 応募資格: 博士号取得者で研究機関等に常勤する者
2. 派遣期間: 6 週間~6ヶ月 (2014 年 3 月 1 日から 12 月 15 日までに出発すること)
3. 支給経費: 往復旅費, 滞在費. なお研究費は支給されない.

4. 派遣先: 本プログラム参加国 (24ヶ国) にある任意の研究機関

5. 応募締切: 2013 年 9 月 10 日

[国際ワークショップ]

1. 支給対象: 単独の国際ワークショップや国際学会の一部のセッション (2014 年に開催)
2. 支給経費: 招へいする講演者の交通費, 宿泊費など
3. 応募締切: 2013 年 9 月 10 日

本事業の詳細はホームページ (以下) をご確認ください.  
[http://www.s.affrc.go.jp/docs/research\\_international/oecd\\_research.htm](http://www.s.affrc.go.jp/docs/research_international/oecd_research.htm)

### 〈第 12 回積水化学自然に学ぶものづくり研究助成募集〉

1. 募集対象: 自然に学んだ基礎サイエンスの知見を活かし, 「自然」の機能を「ものづくり」に活用する研究
2. 助成金額: 総額 2500 万円
3. 助成研究期間: 2013 年 10 月~2014 年 9 月
4. 募集期間: 2013 年 5 月 20 日 (月) より 7 月 1 日 (月)
5. 結果通知: 2013 年 9 月上旬
6. 応募方法: 積水化学ホームページをご覧ください.

7. 連絡先: 積水化学自然に学ぶものづくり研究助成プログラム事務局 (株) 積水インテグレートドリサーチ 佐野, 岩根, 井元

〒601-8105 京都市南区上鳥羽上調子町 2 番地の 2  
Tel: 075-662-8604, Fax: 075-662-8605

E-mail: [shizen13@sirnet.jp](mailto:shizen13@sirnet.jp)

**日本育種学会会員異動 (2013.1.21 ~ 2013.4.20)**

◇ 普通会員入会：中川浩輔（北海道），小野勇治（福島），後藤明俊，星川健（茨城），梅原三貴久（群馬），石井公太郎（埼玉），岡咲洋三（神奈川），服部束穂（愛知），島谷善平（奈良）

◇ 学生会員入会：張聖珍，林和希（北海道），瀬川香（岩手），工藤瑛司（山形），SBEI HANEN，新井健太，柴田睦子（茨城），岡見翠，本田恵倫子（東京），KATKOUT MAZEN，鄭蓮珠，中村淳，増井ゆりか（神奈川），飯田祐樹，福島舞，村山雄亮（長野），國島健（愛知），井上理恵子，大矢悠貴（京都），小林幸志朗（奈良），MOHAMMED YASIR SERAGALNOR（鳥取），高井健（岡山）

◇ 団体会員入会：吉備国際大学・吉備国際大学短期大学部附属図書館（岡山）

**住所変更等**

◇ 普通会員：朝野尚樹，大西志全，小林聡，春原嘉弘，柳沢朗（北海道），三浦真弘（岩手），平田香里（秋田），佐野智義，星野友紀（山形），荒木悦子，川口健太郎，篠崎良仁，長峰司，武藤千秋，矢野昌裕（茨城），秋田祐介（埼玉），浅水恵理香（千葉），角井宏行（神奈川），西村実，森口喜成，表野元保（富山），村上賢治（石川），濃沼圭一，矢々崎和弘（長野），中塚貴司，花森功仁子（静岡），藤井潔（愛知），三村裕（滋賀），滝澤理仁（大阪），金古卓磨，吉川貴徳（兵庫），七里吉彦（鳥取），佐藤宏之（福岡），田淵宏朗（宮崎），高木洋子（沖縄）

◇ 学生会員：川又葵（青森）